

## SDGs を取り入れた事業計画書

株式会社クリーンサービス

## 1 企業・事業概要

## ① 企業概要と理念

＜企業概要＞ 一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、廃棄物処理コンサルティング

＜企業理念＞ 海・山をきれいに

創業から48年、廃棄物処理業を通じて、地域の生活・事業活動を支えてきました。地域と共存共栄し、持続可能な事業を展開していくことは、SDGs の考え方に合致しています。

## ② SDGs事業の概要

## (1) 計量パッカー車を活用した、きめ細かな廃棄物排出量の把握

## ● 持続可能な廃棄物処理のトータルコスト低減のための提案・実践

当社は、創業より廃棄物の発生量をきちんと把握することが、それを抑制するための第一歩だと考え、廃棄物の正確な計量に力を注いで参りました。近年では1Kg単位で廃棄物を計量することが可能な計量器付きパッカー車を30台近く保有し、日々正確な計量を行っています。これにより、排出事業者ごとの廃棄物の組成や「正確な排出量」を把握ことができ、廃棄物処理手法(処理方法・保管方法等)の検討材料として活用するとともに、排出事業者からの信頼を得ながら、顧客に寄り添った廃棄物処理を目指します。

【実績例 ～食品リサイクルの効率的回収～】

食品廃棄物の多量排出事業者(ショッピングセンター)の敷地内に塵芥車を常駐(車両内で食品廃棄物を保管)させ、高効率な収集運搬スキームを提案、実践しています。

## ● 「小口廃棄物」の効率的収集運搬

複数の排出事業者の「小口廃棄物」を巡回して収集・運搬し、回収作業の最適化を図ることで、ローコストかつ高効率な運搬を実施し、廃棄物処理の低炭素化を促進します。

## (2) 食品リサイクル導入事業者・食品廃棄物の回収量増加

現在、焼却処理されている事業系一般廃棄物には、少なからず食品廃棄物が含まれています。これは、製造業等で多量に排出されるような産廃の動植物性残渣とは異なり、廃棄物排出量が少量・小口であること、分別に要するコスト(手間)、それらを収集する仕組みの問題から食品リサイクルが採用されず、他の紙くずと共に焼却されているケースが多くあります。これらの少量・小口の食品廃棄物がリサイクルできれば、焼却施設での焼却量が減少されるとともに、事業系一般廃棄物の食品リサイクルによる再生可能エネルギーの創出に寄与することが出来ます。弊社では、複数の小口事業者を効率的に回収するルートを構築するノウハウを生かし、また、分別しにくいものでもリサイクル可能な施設まで運搬することで、この問題の解決に繋がります。

## 2 SDGsとの紐づけ

### ① 具体的なアクション

<b>アクション①</b> 計量パッカー車を活用し、廃棄物排出量をきめ細かに把握する。	⇒	<b>アウトプット</b> 廃棄物処理のトータルコストを低減する。	⇒	<b>アウトカム</b> 排出事業者側が食品リサイクルに積極的に取り組む。	⇒	<b>インパクト①</b> 廃棄物の減量化を図る。(廃棄物の発生抑制に貢献)	SDGs ゴール 9 11 12
	⇒	<b>アウトプット</b> 効率的な「小口廃棄物」の収集ルートの設定	⇒	<b>アウトカム</b> 積載効率(積載量／積載能力)を向上させる。	⇒	<b>インパクト②</b> CO2 排出量(運搬)削減により、低炭素社会の実現に寄与する。	SDGs ゴール 9 11
<b>アクション②</b> 食品リサイクル導入事業者・回収量の増加を図る	⇒	<b>アウトプット</b> 一般廃棄物の可燃物の減量化に貢献する。	⇒	<b>アウトカム</b> 事業系一般廃棄物の食品リサイクルが向上する。	⇒	<b>インパクト③</b> 再生可能エネルギーの生成に貢献します。(1 kgあたりの電力量:0.3767kwh/kg)	SDGs ゴール 11 12

### ② 社会的なリターン

本事業を推進することにより、**廃棄物の削減(排出事業者側の製造量及び仕入の適正化に貢献)**、**運搬車両の CO<sub>2</sub>排出を抑制し、低炭素社会、循環型社会(再生可能エネルギーの生成)の実現に寄与する。**

## 3 経済的価値創出との関係

排出事業者に対して“持続可能な廃棄物処理サービス”を提供し続けることによる**企業ブランディングの向上**や、高効率な回収ルート構築による**燃料費等の削減**によって、安定的な収益の確保につなげる。

## 4 事業展開(スケジュール)

### ① 全体のスケジュール

アクションをスケジュールに当てはめると下表のようになる。最優先事項は**事業者毎に廃棄物の計量化(見える化)し、廃棄コスト及び廃棄物の削減につなげていく**。各アクションにおいて重要となる“事業者への提案”は、顧客対応業務を担う営業部が推進し、暫時関係部署との連携を図る。

	2021年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
アクション①	廃棄物の回収(計量) → 計量結果を踏まえた事業者への提案・回収ルート改善									
アクション②	食品リサイクル導入事業者・回収量の増加									

### ② アクションの実行者一覧

項目	アクションの概要	責任者・担当者	
		責任者	担当者
アクション①	計量パッカー車を活用し、廃棄物排出量をきめ細かに把握する。	営業部	
アクション②	食品リサイクル導入事業者・回収量の増加を図る。		